

生徒のみなさん、こんにちは。校長の吉川です。私は話があまり上手ではないので、みなさんに向けて校長室から時々メッセージを送りたいと思います。これはその第1号です。

校長は教員免許の要らない職ですが、私はいちおう地歴・公民の教員免許を持っています。専門は地理です。今年のGWの10連休中は、自動車や自転車で足柄高校の周りをぐるぐると走り、いろいろなことに気が付きました。今回から何回かに分けて、足柄高校周辺の地理や歴史について紹介したいと思います。

学校の東側に広がる足柄平野の景色は、昼も夜もなかなか素敵ですね。この足柄平野の始まる所を地図（裏面にあります）で確認すると、学校から北に向かってしばらく行ったところにある「新大口橋」のあたりになります。それまで谷を刻んで山北町と南足柄市の境を流れてきた酒匂川が、ゆったりと広い平野を流れるようになります。このような場所は「扇状地」と呼ばれる地形ができることが多く日本各地に見られることから、扇状地は地理の教科書には必ず出ています。

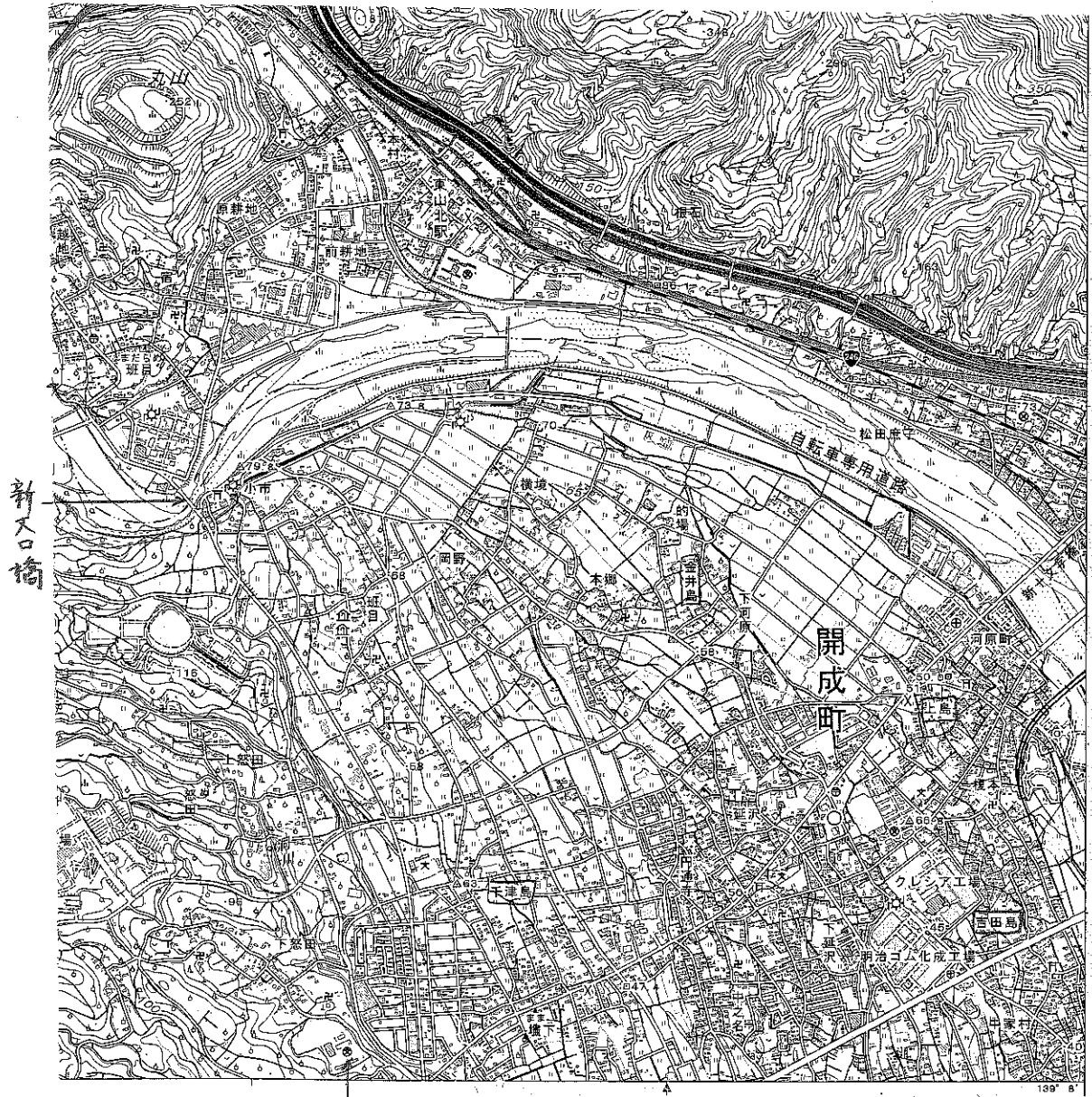
現在の酒匂川は足柄平野のやや東側（松田寄り）を流れていますが、昔は相当な暴れ川だったらしく、これまであちこち流路を変えたり、網目状に流れたりした形跡があります。酒匂川の治水の歴史については、追ってまとめて紹介しますので、ここでは氾濫を繰り返した酒匂川が生んだ「ある地名」について記したいと思います。

私は新松田駅からバスで足柄高校まで来ているのですが、その途中で何度か「〇〇島」という地名を見ることができます。地図で確認すると、吉田島、金井島、千津島、上島という地名が確認できました。「海でもないのに何で島？」と思いますが、この扇状地上の〇島という地名は意外にあちこちにあるのです（石川県の手取川扇状地が有名です）。どうしてこのような地名が生まれたのでしょうか。

河川は氾濫すると一緒に土砂が運ばれて川岸に堆積し、自然堤防という微高地ができます。川が何度か流路を変えると、そのたびに川岸に自然堤防ができますが、そこは周りより少し高くなっています。大洪水で水浸しになったときなど、山の上からみるとそこだけぽつんと島のように見えたので、そのように呼ばれるようになったと言われています。

河川の治水がある程度進むと、そのような浸水しにくい微高地に集落ができるようになります。住居の周りに樹を植え、周囲の低湿地に排水路をつくって水を逃がし、いわゆる「灌漑」をして水田など農耕地をつくっていきました。GW中はちょうど水田に水を入れて田植えの準備をする時期だったので、開成町の一带の水路を水が流れる音がゴーッと響いていました。自然堤防は1mあるかないかの微高地ですが、自転車で走っているとなく高低差がわかりますよ。

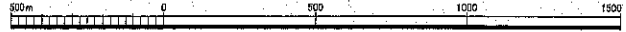
開成町には「瀬戸屋敷」という文化財があり、茅葺屋根の古い民家と屋敷林などが残っています。この隣のお寺の墓石をみると、瀬戸、西海など海から離れているのになぜこのような名字の家が多いのか、さきほどの島地名と同じ理由が推測されますが、わたしには詳しいことはわかりません。



足柄高枝

1:25,000

山北



国工地理院地形図